

充実感にじませながら、作業に励む学生



東京農大の里山景観保全活動 鮫川

農業体験に充実感

「家庭的雰囲気好き」 受け入れ側の厚意に感謝

鮫川村で十、十一の両日に実施された東京農大の第百回里山景観保全活動は、過去最多に近い学生、卒業生合わせて四十七人が参加し、一泊二日の農業体験を存分に楽しんだ。平成十二年にスタートした学生有志による活動で、固い絆のもと都市と地方との交流が続けられている。学生の表情には充実感がみなぎっていた。

冷え込みが一段と強まってきた十日の昼過ぎ。学生 同大地域環境科学部一年（こ）は入学からすでに四年の岡田優美さん（こ）に身近に触れられる。間伐作業が楽しみ「地元 住民を交えて懇親を深め料理を食べてみたい」と。同大地域環境科学部 声を弾ませた。同短期大 学部一年の本田珠希さんは「今回で学生最後。社会人になっても時間があれば参加したい」と名残を惜しんだ。

最終日は間伐作業や新米で餅つきを体験し、バスで東京へと向かった。活動を企画する入江彰昭 同大准教授（こ）は「受け入れ側の厚意と継続的に来てくれる学生がいてこそ続けられる活動」と感謝した。

は土づくりセンター「ゆの棚橋和彦さん（こ）と豊 度目の参加。「緑が多いうきの郷土」で堆肥づく 島伶惟さん（こ）も充実し この環境は素晴らしい、アットホームな雰囲気を見学した後、村内の た表情でまき割りに臨ん 温泉施設「さざり荘」の だ。費用が自己負担で、好き」と話した。

加温で使用される木材の 授業ではないボランティア 夜には、宿泊先のほっ まき割り、運搬作業に協 ア活動だが「農村の生活 とはうす・さがわで記 謝した。

師走 ひと模様

小雪がちらつく鮫川村で若者の元気な声が響く。東京農大の学生有志が村で定期的に実施する里山景観保全活動は十日、平成十二年の開始から百回を迎えた。延べ三千人近い学生が農山村の暮らしに触れている。

鮫川の四季 魅せられ



後輩の学生とまきを運ぶ平田さん（左）

平田太良さん（こ）は福島市出身。活動の機に村職員になった。「僕にとって村は第二の古里。まきを手に先輩に優しい

村に初めて来たのは学生だった十一年前。一泊二日で農業や間伐作業を

体験した。田舎での生活と、生き生きと農作業に当たる先輩の姿に引き込まれた。

活動は主に年六回実施し、費用は自己負担。大学院を卒業するまでの六年間で休んだのは二回だけだった。

「四季の息遣いを感じられる鮫川の環境の良さを一人でも多くに知ってほしい」。村民として交流の歴史をこれからも刻んでいく。

情報をお寄せください 電話024(531)4122